

次の **I** の問題は新課程の歴史総合の問題です。「世界史(新)」の受験者が解答してください。(解答番号は **1** ～ **8**)

I 戦後のアジア・アフリカに関する次の文章を読み、下の問いに答えよ。

A 1954年、セイロン(現スリランカ)のコロンボに、南アジア・東南アジアの5カ国の首相が集まり国際会議が開催された。同年には中華人民共和国の **ア** 首相とインドのネルー首相が会談し、 **イ** を発表した。こうした動きを受け、翌年にはインドネシアのバンドンで アジア＝アフリカ会議 ⁽¹⁾が開催されるに至った。

B アフリカでは、1950年代後半から1970年代にかけて次々と独立国が誕生 ⁽²⁾した。1963年にはエチオピアのアディスアベバにアフリカ30カ国の首脳が集まり、 **ウ** が開催された。そこでは **エ** が結成され、アフリカ諸国の連帯と発展、植民地主義の克服をめざすこととなった。しかし、これらの国では、独立後も旧宗主国の介入や部族対立による内戦がしばしば発生した。

C 1960年代以降、アジア諸国では 政治的自由や表現の自由などの基本的人権 ⁽³⁾を犠牲にして、経済発展を優先させる政治体制のもと、輸出志向型の工業化が進展した。工業化の波はアジアの広範囲におよび、韓国・台湾・香港・シンガポールなどの国は、メキシコやブラジルなどとあわせて **オ** と呼ばれるようになった。また、1967年には マレーシア・タイ・フィリピン・インドネシア ⁽⁴⁾・シンガポールの5カ国が **カ** を結成して相互協力をめざした。

問1 ア・イ に当てはまる語句の組み合わせを、次の①～⑥のうちから選べ。

1

- | | | |
|---|---------|------------|
| ① | ア = 周恩来 | イ = 改革開放路線 |
| ② | ア = 周恩来 | イ = 平和五原則 |
| ③ | ア = 蔣介石 | イ = 改革開放路線 |
| ④ | ア = 蔣介石 | イ = 平和五原則 |
| ⑤ | ア = 毛沢東 | イ = 改革開放路線 |
| ⑥ | ア = 毛沢東 | イ = 平和五原則 |

問2 [下線部(1)に関して] この会議の説明として正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。

2

- ① この会議にはアジア・アフリカ 29 か国の代表が参加した。
- ② 平和五原則を発展させ、非同盟主義や反植民主義などをうたった平和十原則が打ち出された。
- ③ この会議は開催地の名をとって「バンドン会議」とも呼ばれる。
- ④ 日本はこの会議に招待を受けたが、参加しなかった。

問3 [下線部(2)に関して] 次の文章のうち、波線部の誤りはいくつあるか。下の①～⑤のうちから選べ。

3

多くがフランスの支配下にあった北アフリカでは、1956年にモロッコとチュニジアが、1962年にアルジェリアがそれぞれ独立した。一方、西アフリカでは、イギリスの植民地であったガーナが、1957年にナセルを指導者として独立した。さらに、1960年には新たに17もの独立国が誕生した。そのため、この年は「プ
ラハの春」と呼ばれる。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 1 | ② | 2 | ③ | 3 | ④ | 4 | ⑤ | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

問4 ・ に当てはまる語句の組み合わせを、次の①～④のうちから選べ。

- ① ウ = アフリカ民族会議(ANC) エ = 経済協力開発機構(OECD)
- ② ウ = アフリカ民族会議(ANC) エ = アフリカ統一機構(OAU)
- ③ ウ = アフリカ諸国首脳会議 エ = 経済協力開発機構(OECD)
- ④ ウ = アフリカ諸国首脳会議 エ = アフリカ統一機構(OAU)

問5 [下線部(3)に関して] このような政治体制をあらわす語として正しいものを、次の①～④のうちから選べ。

- ① 開発独裁 ② 「軍産複合体」 ③ コミンテルン
- ④ 新民主主義

問6 ・ に当てはまる語句を、次の①～⑤のうちから選べ。両方とも正解の時のみ点が与えられる。

オ = , カ =

- ① アジア太平洋経済協力(APEC) ② 新興工業経済地域(NIES)
- ③ 東南アジア条約機構(SEATO) ④ 東南アジア諸国連合(ASEAN)
- ⑤ 経済相互援助会議(COMECON)

問7 [下線部(4)に関して] 各国の説明として正しくないものを、次の①～⑤のうちから選べ。

8

- ① シンガポールは1965年にマレーシアから分離・独立し、リー＝クアヌー首相のもとで工業化を推し進めた。
- ② インドネシアでは、スカルノ大統領が中国との関係を強化する政策をとっていたが1965年に失脚し、軍部を率いていたスハルトが大統領となった。
- ③ フィリピンでは、1965年に大統領となったマルコスが、アメリカ合衆国などからの外資導入による経済政策を進めた。
- ④ マレーシアでは、1981年に首相に就任したマハティールのもと、中国や北朝鮮をモデルとした経済政策を推し進めた。
- ⑤ タイでは、1958年に軍人によるクーデターが発生し、立憲君主制のもとで軍事政権が樹立された。

次の **Ⅱ** の問題は旧課程の世界史の問題です。「世界史(旧)」の受験者が解答してください。(解答番号は **9** ～ **17**)

Ⅱ 次の表は、10世紀以降に存在したイギリスとフランスの王朝をまとめたものである。この表に関する下の問い(問1～問7)に答えよ。(28点)

イギリス	フランス
A スチュアート朝	H ヴァロワ朝
B テューダー朝	I カペー朝
C ノルマン朝	J ブルボン朝
D ハノーヴァー朝	
E プランタジネット朝	
F ヨーク朝	
G ランカスター朝	

問1 イギリスの王朝B・C・Eが成立した順を、次の①～⑥のうちから選べ。

9

- ① B → C → E ② B → E → C ③ C → B → E
 ④ C → E → B ⑤ E → B → C ⑥ E → C → B

問2 フランスの王朝H・I・Jが成立した順を、次の①～⑥のうちから選べ。

10

- ① H → I → J ② H → J → I ③ I → H → J
 ④ I → J → H ⑤ J → H → I ⑥ J → I → H

問3 王朝Eと王朝Hの時に、イギリスとフランスのあいだではじまった戦争を、次の①～④のうちから選べ。

11

- ① 三十年戦争 ② バラ戦争 ③ 百年戦争 ④ ユグノー戦争

問4 王朝Eと王朝Iが同時に存在していたとき、イギリスはフランスにおける領地の大部分を失った。そのときのイギリス王とフランス王の組み合わせを、次の①～④のうちから選べ。 12

- ① ジョン王 — フィリップ2世
- ② ジョン王 — フィリップ4世
- ③ ヘンリ2世 — フィリップ2世
- ④ ヘンリ2世 — フィリップ4世

問5 国王至上法(首長法)を制定したヘンリ8世が属していた王朝を、次の①～⑦のうちから選べ。 13

- ① A ② B ③ C ④ D ⑤ E ⑥ F
- ⑦ G

問6 イギリス議会が「権利の請願」を提出したときの王朝を、次の①～④のうちから選べ。また、このときの国王を、次の⑤～⑧のうちから選べ。

王朝 = 14 , 国王 = 15

- ① A ② B ③ C ④ D
- ⑤ ジェームズ1世 ⑥ ジェームズ2世
- ⑦ チャールズ1世 ⑧ チャールズ2世

問7 王朝Jの初代国王を、次の①～④のうちから選べ。また、王朝Jの最盛期の国王を、次の①～④のうちから選べ。

初代国王 = 16 , 最盛期の国王 = 17

- ① アンリ4世 ② フィリップ6世 ③ ルイ13世
- ④ ルイ14世

次の **Ⅲ** ～ **Ⅴ** の問題は「世界史(新)」および「世界史(旧)」の受験者に共通の問題です。いずれの受験者も解答してください。(解答番号は **18** ～ **38**)

Ⅲ 中世ヨーロッパに関する次の問い(問1～問6)に答えよ。(24点)

問1 次の図は、6世紀半ばのビザンツ帝国の領土を示したものである。ユスティニアヌス大帝は、図のイタリア半島の **A** と北アフリカの **B** を滅ぼし、一時的に地中海のほぼ全域における支配を復活させた。**A** と **B** に入る王国を、下の①～④のうちから選べ。両方とも正解の時のみ点が与えられる。 A = **18** , B = **19**

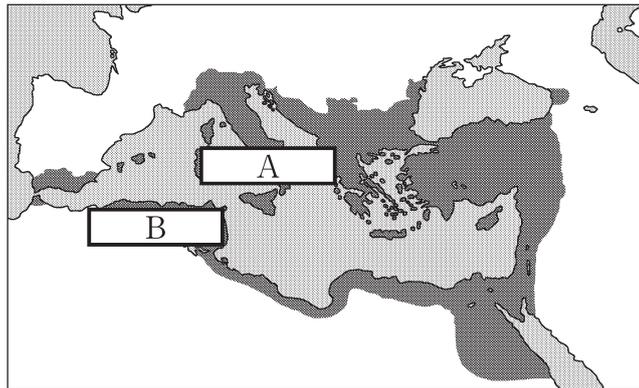


図 6世紀半ばのビザンツ帝国の領土

- | | |
|-----------|------------|
| ① ヴァンダル王国 | ② 東ゴート王国 |
| ③ ブルグンド王国 | ④ ランゴバルド王国 |

問2 ユスティニアヌス大帝のおこなった事績として正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。

20

- ① ソリドゥス金貨を、はじめてつくらせた。
- ② 『ローマ法大全』の編纂へんさんに尽力した。
- ③ ハギア=ソフィア聖堂の再建に尽力した。
- ④ 中国から養蚕技術を導入し、絹織物産業の発展の基礎を築いた。

問3 次の図は、フランク王国のクローヴィスの改宗を描いた挿し絵である。クローヴィスが開いた王朝と改宗した宗派の組み合わせを、下の①～④のうちから選べ。

21



図 クローヴィスの改宗を描いた挿し絵

- ① カロリング朝 — アタナシウス派
- ② カロリング朝 — アリウス派
- ③ メロヴィング朝 — アタナシウス派
- ④ メロヴィング朝 — アリウス派

問4 次の図は、『フランス大年代記』に描かれたトゥール・ボワティエ間の戦いを描いた挿し絵である。中央の王冠をかぶっている人物は、その戦いでイスラーム軍を撃退した人物と言われる。その人物を、下の①～④のうちから選べ。

22

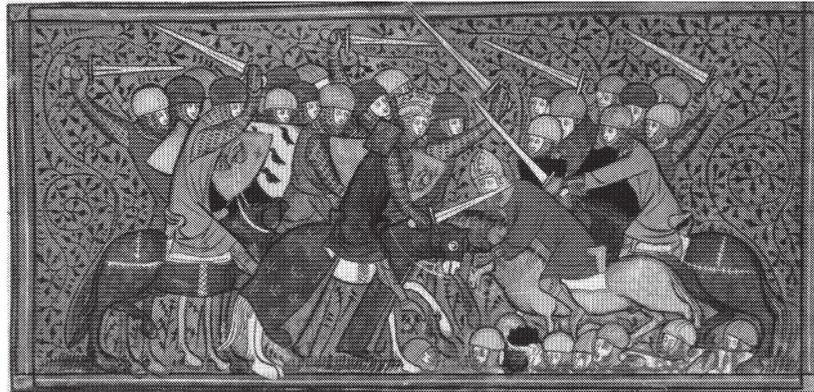


図 トゥール・ボワティエ間の戦いを描いた挿し絵

- | | |
|------------|-------------------|
| ① オドアケル | ② カール大帝(シャルルマーニュ) |
| ③ カール＝マルテル | ④ ピピン |

問5 次の図は、フランク王国が、843年のヴェルダン条約と870年のメルセン条約により、東・西フランクとイタリアの3つに分断した様子を描いたものである。東フランク(ドイツ)で、962年に教皇からローマ皇帝の位を与えられた人物を、次の①～④のうちから選べ。

23

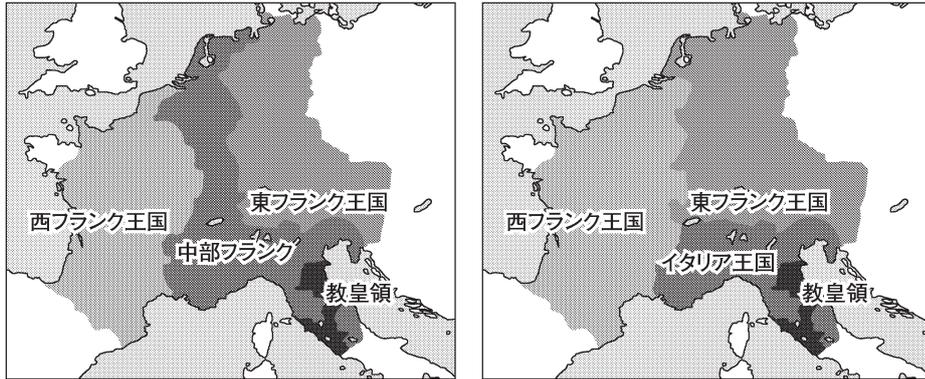


図 ヴェルダン条約(左)とメルセン条約(右)によるフランク王国の分裂

- | | |
|------------|----------|
| ① オットー1世 | ② シャルル2世 |
| ③ ルートヴィヒ1世 | ④ ロタール1世 |

問6 下のA～Cの事項の下線部の国や王朝が成立した順を、次の①～⑥のうちから選べ。

24

- ① A → B → C ② A → C → B ③ B → A → C
④ B → C → A ⑤ C → A → B ⑥ C → B → A

A ロロ率いる一派が、北フランスに上陸してノルマンディー公国を建てた。ここからさらにわかれた一派は、南イタリアとシチリア島に侵入し、両シチリア王国を建国した。

B リューリクを首領とするノルマン人の一派(ルーシ)はドニエプル川流域のスラヴ人地域に進出して、ノヴゴロド国を、ついでキエフ公国を建設した。

C ノルマンディー公ウィリアムが王位を主張し、イングランドへ攻め込み、ウィリアム1世として即位し、ノルマン朝を開いた。

IV 次のA～Eの事項はいずれもローマ教皇に関するものである。これを見て、下の問い(問1～問6)に答えよ。(24点)

- A カールの戴冠
- B カノッサ事件
- C 第4回十字軍を提唱
- D クレルモン宗教会議を招集
- E アナーニ事件

<解答群A>

- ① インノケンティウス3世
- ② ウルバヌス2世
- ③ グレゴリウス1世
- ④ グレゴリウス7世
- ⑤ ボニファティウス8世
- ⑥ レオ3世
- ⑦ レオ10世

<解答群B>

- ① エドワード3世
- ② カール4世
- ③ ハインリヒ4世
- ④ フィリップ2世
- ⑤ フィリップ4世
- ⑥ ルイ9世

問1 [Aに関して] これに関わる教皇を、上の解答群Aから選べ。 25

問2 [B・C・Dに関して] B～Dの事項を正しい生起順にならべたものを、次の①～⑥のうちから選べ。 26

- ① B → C → D
- ② B → D → C
- ③ C → B → D
- ④ C → D → B
- ⑤ D → B → C
- ⑥ D → C → B

問3 [Bに関して] この事件に直接関わる教皇と国王について、教皇を上の解答群Aから、国王を上の解答群Bからそれぞれ選べ。

教皇 = 27 , 国王 = 28

問4 [Cに関して] 提唱した教皇を，上の解答群Aから選べ。 29

問5 [Dに関して] 招集した教皇を，上の解答群Aから選べ。 30

問6 [Eに関して] この事件に直接関わる教皇と国王について，教皇を上
の解答群Aから，国王を上の解答群Bからそれぞれ選べ。

教皇 = 31 ， 国王 = 32

V 下の1～3の図は、いずれも、19世紀後半から20世紀の初め頃までの出来事に関する風刺画である。1～3はそれぞれに関連する記述a, b, cがあり、a, bの記述には下線部が、cの記述には が含まれている。記述a, bの下線部の正誤を判断し、その組み合わせを次の解答群Aから選べ。また、記述cの に入る人名を、次の解答群Bから選べ。(24点)

<解答群A>

- | | |
|---------------|---------------|
| ① a = 正 b = 正 | ② a = 正 b = 誤 |
| ③ a = 誤 b = 正 | ④ a = 誤 b = 誤 |

<解答群B>

- | | |
|----------------|----------|
| ① ウィルソン | ② エーベルト |
| ③ セオドア＝ローズヴェルト | ④ デイズレーリ |
| ⑤ ニコライ2世 | ⑥ ビスマルク |
| ⑦ マッキンリー | ⑧ ローズ |
| ⑨ ヴィルヘルム2世 | |

1

正誤 = , 人名 =

- a 1880年代以降, 国家の統合力にすぐれた有力な列強諸国は, アジアやアフリカに殺到して現地の抵抗を武力で制圧しながら植民地や従属地域に組み込んで, それぞれの勢力圏を打ちたてた。イギリスは1880年代, エジプトのマフディー運動を制圧して事実上の保護国とした。
- b アメリカ合衆国は1898年の戦争で, フランスからフィリピンとグアムを獲得した。
- c 図1の風刺画には, 欧米文明の優越誇示に対する批判が込められている。アメリカ合衆国では, 共和党の 大統領が, キューバの独立運動に乗じてアメリカ=スペイン(米西)戦争に勝利し, キューバを保護国とした。



図1

2

正誤 = , 人名 =

- a 19世紀前半まで、アフリカについてのヨーロッパ人の知識は限られたものであったが、19世紀半ば、アフリカ大陸を横断したアムンゼンや、スタンリーによって現地の事情が明らかになった。
- b ブール人はケープ植民地がイギリス領になると、北部に移動してトランスヴァール共和国とオレンジ自由国を建てたが、1899年にイギリスのジョゼフ＝チェンバレン植民相はこれらの国々とのあいだに南アフリカ(南ア、ブール)戦争をおこして両国を併合した。
- c 図2の風刺画には、アフリカ縦断政策をとる が描かれている。彼は、ケープ植民地の首相として拡張政策を指導した。



図2

3

正誤 = , 人名 =

- a ドイツはバグダード鉄道敷設を推進，これによってベルリン・ビザンティウム(イスタンブル)・バグダードを連結する 3B 政策を進めた。それとともに，海軍拡張政策によってイギリスの覇権に挑戦した。
- b ロシアは日露戦争に敗北すると，バルカン方面へと進出方向を転じて，ドイツやオーストリア，オスマン帝国と対立するようになった。そのため，ロシアは，1907 年に英露協商を結び，イギリスと和解した。
- c 図 3 の風刺画には，ロシアとイギリスの覇権争いの様子が描かれている。ドイツが のもとでロシアとの再保障条約更新を見送り海外進出にのりだしたため，ロシアは 1890 年代前半に露仏同盟を結んだ。



図 3